

母親委員会 給食技能員さんとの懇談会

平成 17 年 7 月 2 日（土）

1、開会の言葉（武川委員長）

今日は朝早くよりお集まりいただきありがとうございます。

子供の食に関する興味・関心が高くなってきています。6年生の長女も低学年の頃は偏食などあり、大変な事もあったが、今は克服し、これも皆様のおかげだと思っています。好きな給食のメニューを聞いたところ、ラーメンスープがおいしくて、子ども達にも人気のようです。デザートもとても楽しみにしています。

2、市 P 連会長の挨拶（天野会長）

皆様の日頃のお仕事に対し、PTA代表としてとても感謝しています。

現代の子供達には、食べ物に対する感謝の気持ちが薄れてきているのではないかと心配です。食育基本法が成立され、学校及び家庭での食教育の再認識をしなければいけない。ところが、文部科学省に、「いただきます」を言わせるのはおかしいとのクレームがあったと聞きました。「いただきます」とは、作ってくれる人・食材への感謝の気持ちの表れであるのに、最近、この感謝の気持ちが薄れてきている。

家庭で今すぐに出来る事食育とは、家族みんなで食卓を囲む事、共食ではないでしょうか。

3、甲府市教育委員会学事課課長挨拶（米山課長）

学事課の職務は、給食・施設・就学等多岐にわたります。

食育基本法が成立され、学校給食を見直す姿勢に関心が高まっています。

大きな課題となっている民間委託への件は、皆様のご意見を頂く中で、時代の流れで、好む、好まざるに関わらず進んでいくと考えます。ただ、民間委託へということは基本方針としてあるが、いつからとか明確なものは決まっていませんので、当分の間は現状の自校方式を考えています。調理員の配置・施設の老朽化・適正配置の問題等いろいろ絡んでくるので、幅広く皆さんの意見を聞きたいと思っています。

4、懇談会・質疑応答

司会 今日では調理さんとの懇談会で、具体的な結果をだそうという会ではないので気楽に、話をうかがいたいと思います。栄養士の先生が増えたことは、うれしいですね。

栄養士さん・調理士さんより

- ・ 市P連の方々とは、以前より調理実習や色々な研修など機会を持たせてもらい、実際の給食現場について理解してもらえてよい。
- ・ 今年、栄養士が3名増えて8名になり、私自身はホーム校と3校を担当している。兼務校への巡回指導は、以前は月に1回程度しか行けなかったが、今は週に1度行けるようになり、子どもたちとのふれあいが多くなった。新しいメニューも加えていきたい。
- ・ 栄養士さんからの、指示書がありそれに基づいて調理している。調理するときはそこに心を置いて、切るときにも気をつけて。子ども達がどうすれば食べてくれるかなと考えながら調理している。
- ・ 今まででは何か栄養士さんに、聞きたい事があっても電話等で確認していたのが、今は直接聞いて良い。次に来る予定が分かるので、聞きたい事をためておける。
- ・ 子どもたちが残食処理の仕事も手伝ってくれて、自分たちが少しでも残さないようにどうしたら良いのか努力している。
- ・ 何事も食べる事が基本になっている。最近の色々な事件も食べる事を大切にしている家庭ではないのでは？時代を担う子どもたちに、食事を作ることが出来て、今の仕事に

誇りを持っている。

- ・ 食育教育が出来てとても良かった。キレル、ムカつくは、食の貧困からか？昔は、食材自体に栄養があった。(にんじんも昔は水に沈んだが、今は浮く)今は土壌自体に栄養が不足して、食材にミネラル等栄養がなくなっている。学問も大切だが体を作ることが大切。役所もお金、お金と言わず、子どもの食にお金をかけて欲しい。安全なものを提供して、健康な子供になって欲しい。
- ・ よく食べるクラスは、風邪の時期でも引く子供が少ない。前は煮物を食べてくれなかったが、最近は結構食べてくれる。メニューも昔は揚げ物はそのままだったが、今はソースをからめたりと、工夫されている。子ども達は片づけもきちんとして、「ありがとう」とお礼も言ってくれる。

母親委員より

- ・ 学校保健委員会で給食委員会の子ども達が活動を発表してくれた。給食新聞、紙芝居、給食時間の放送など、給食についていろいろな事を知っておどろいた。そこでの校長先生の話の中で、コケッココ症候群(個人・孤独・固定食・欠食)の子どもが増えていると聞いた。アンケートをとると、朝ごはんを食べてこない子がいたり、家庭での食事が手をかけていなかったりと、給食ではとても気を使ってもらっているのに、家庭では反比例となっている。
- ・ 安全だけでなく、細かいところまで気を配ってくれているのが良くわかる。食の細かい子だが、前日には必ず、メニューを確認して楽しみにしている。家では野菜は、生野菜が多くなってしまっている。給食に頼っている所がある。
- ・ 家では食べないにんじんも、給食に出るとおいしく食べてきた。作り方なのか、友達との雰囲気が良いのか分からないが、給食によって育ったのかも思っている。野菜ざらいの子も給食では食べ、給食のおかげでバランスがとれている。
- ・ 今回、学校の建替えて、一時給食室が無くなる。子どもと食について、もっと多くの人に関心を持ってもらいたい。
- ・ 給食で、野菜を食べられるようになった。給食メニューを家庭でも真似て作ったりしている。酢豚にジャガイモ、カレーの玉ねぎの切り方を微塵と乱切りの2種類に、というのは、家庭でも取り入れました。
- ・ 学校でのアンケートでは、約300人のうち朝食ぬきの子が7人。6年生女子で、給食にまったく手を付けない子がいる。(ダイエット??)カレーにナンがついてくるのには感激しました。
- ・ 安全な、栄養豊富な給食には感謝している。給食の調理員さんとのコミュニケーションや調理室はとても大事、ぜひ残してほしい。
- ・ 自分自身好き嫌いが多く、かつて重度の貧血になってしまった経験があるので、子供の偏食も直していきたい。
- ・ スポーツ合宿で若い人と一緒になるが、今の若い人は食べる事に興味がないのかと。朝抜き、昼はフライドポテト、夜もそれほど食べない。これでよくスタミナが続くものかと心配になる。
- ・ 給食メニューを真似して作ってみるが、ちょっと違うと言われる。家では食べないピーマンを給食では食べる。子どもに聞くと、きり方・味が違うと言う。単位PTAにもこのような会の報告をしていきたい。
- ・ PTA総会で、給食問題について説明があった。それまで知らなかったので多くの人に伝えていかなければいけないと感じた。
- ・ アレルギーの子どもには、除去食を調理員さんが特別に作ってもらっている。
- ・ これまで、遺伝子組換えでない醤油使用に切り替えたり、環境ホルモンの心配のない食器に変更したり、教育委員会といっしょにその時、その時の課題に取り組んできた。そのようなことをたくさんの人に知らせ、これからも子供たちにとって何が安全か、常に子どもたちのために何が出来るのかを考えていきたい。

- ・ 献立作成委員会に出席させて頂き、色々な話を聞く事が出来感謝している。

大里小 給食室改築について

- ・ 工事期間中のみ、暫定的に民間委託（今年の9月～来年12月）
- ・ 工事期間の給食は中学校の弁当方式でなく、保温性のある食管方式
- ・ 新築の調理室はドライ方式。従来より進んだ調理室を建設し、自校直営方式にもどす。
- ・ メニューは他の小学校と同じ
- ・ 業者の選定方法は？
 - 具体的にどんな形になるか、今進めている段階。現状にあった業者を選定
- ・ 食材も他の学校と同じ物を使用
- ・ 食器類も民間において、洗浄・消毒・保管をする。配送する車も特別なもの。
- ・ 民間だと目に見えないので不安
 - 民間は、一度でも食中毒を出したら終わってしまうので、衛生面はきちんとしているので、心配はしなくて良いと考えている。
- ・ 栄養士さんも業者に指導に行く。
- ・ 他の学校での改築の予定は？
 - 今の所、予定は無い。耐震改修工事等の関係で、使えなくなった時には共同調理場か、民間になるかはその場その場で考えていく。

民間委託について

- ・ 自校方法を見直す時期——人員配置・施設の関係で無理の無い時期に
- ・ まだ時期的なものは、全然予定されていない。
- ・ 民間委託を受け入れられる業者が、今は無い。
- ・ 業者自体が、設備投資等していかないといけない。
- ・ 複数の学校をまかなう、共同の調理場という考えもある。

食育の取組

- ・ 元気にいただきます。片付ける時は、きちんとして、みんなでそろってごちそうさま。子どもたちから元気ももらっている。
- ・ 伊勢小、食育推進校として3年間（2004～2006年度）取り組む。来年1月の食育フォーラムは一般公開する。給食日よりで情報提供もしている。
- ・ 単位PTAで試食会の時などに給食室の見学は可能か？
 - ⇒作業中に入れないので、前室を見るだけなら。
- ・ 民間委託は時間の問題だと言う事で、衛生面は民間も気を配ってくれるとは思いますが、技能員さんがいなくなると「感謝の気持ち」や、四時間目くらいに給食室からもれる匂いなど失われるものが大きいのではないかと思う。経済的な面で民間になるのなら、教育的なフォローはどうするのか？
 - 具体的には民間委託は、何も決まっていはいない。民間委託でも、外へ出すだけではなく自校方式での調理業務のみ業者の人が入るのも選択肢である。食育は給食だけで考えていくのではなく、全体的なもの。民間委託の方向性と同時に、食育の推進も国としてすすめていくのでうすくはなっていないと考える。
- ・ 中学校での残し方が、ご飯の上にゴミを乗せていた事があり、親として心が痛かった。作ってくれた人への感謝の気持ちが失われている気がする。心が純粋な小学生のうちに、そういう心を育てたいので、民間にするにも方法を考えて欲しい。
- ・ 手をかければかけただけ、子どもの心も育つ。
- ・ 給食室へのセコムは入っているか？
 - 学校全体でも全部には入っていない。貴重品がある校舎のみ。

- ・ コミュニケーションがあれば感謝の気持ちも育つ。低学年の子供が、「僕悪いことをしたから、給食を減らして下さい」と給食室まで言いに来た事がある。こういうふれあいが大切。
- ・ 6年の男の子が率先して給食委員をしている。技能員さんとのふれあいが楽しらしい。お勤めをしているお母さんが多くなったので、技能員さんをお母さんの代わりのように、子どもたちは接しているようだ。
- ・ 子どもによって食べる量が違うので、同じ量を初めから配ってしまうと残食が多くなるのでは。少なめに盛って、残ったのは食べられる子どもが食べたら、残食が減るのでは。
- ・ 財政の問題での民間委託へというのは分かるが、技能員さんと関わっていくととても良い環境を少しでも残していけるように「署名運動」をしても無理か？
 - 立场上署名をしたらどうこうとは言えない。第三者委託へは動かしがたい。
- ・ よりよい方法を模索していくという事は、いまはまだ白紙状態？
 - 給食を提供するのは教委としての責任
- ・ 白紙ならばどのようにでも工夫が可能なのでは？
 - コストは大きな要因の一つ
- ・ 校舎を建替えるのなら、給食室も建替えてほしい。
 - 緊急度の高い順に行っている。市民との折り合いがつかないが、我々の立場は子どもや教育だけでなくトータルで考えなければならぬので、ジレンマを感じている。
- ・ 小学校給食は、作りたてのをその場で食べることが出来るととてもいい環境にいるのに、中学はお弁当形式で残念。小学校の給食室で中学校の分は作れないのか？こんな良い環境が無くなってしまふ民間委託は残念だ。
- ・ 高学年の女の子は、おかわりが恥ずかしいと思っている。もともとの盛る量も少ない。担任に、ある程度の量は食べて欲しいとお願いしている。
- ・ 栄養士の巡回指導とはどのような事を？
 - 午前中は、調理員さんと調理室で。給食中はクラスを回って、子供たちとふれあうようにしている。その後は先生方と話し合ったりしている。これからは、授業の中にも入っていききたい。
- ・ 食育の家庭でありかたに、高い認識があるのに驚いた。また、小学校給食への高い評価に感謝する。これからの給食への期待も感じた。
- ・ 民間委託によるふれあいが出来なくなるとしたら、何か別の方法を考えていかないといけない。
- ・ 食育フォーラムが来年1月にある。伊勢小での取組を発表

6、閉会の言葉（新津副ブロック長）

いい意見を聞かせていただき、とても良かったです。これからも、勉強していききたいと思います。